

令和7年度村長施政方針について / 野甫英芳

村長に答弁していただきたいと思います。村長が今年の、令和7年の3月の『施政方針』で述べていることがございます。人口減少問題、少子高齢化などの危機的状況で、伊平屋村の豊かな暮らしや文化を取り戻すために「人口ビジョン2050」を策定して、村民との危機感を共有して協働によるビジョン実現を図って、住民と行政の真の連帯を実現して、行政と住民、民間団体との協働意識の醸成を図っていくと宣言しております。村長がこの施政方針で発表して、現在で半年になったんですが、実は、住民には、それが全く伝わっていないので、村長としては、今の段階でどう考え、今後どうするつもりなのか、それをご答弁お願いします。

■議長（金城信光） 答弁、名嘉律夫村長。

■名嘉律夫村長 野甫議員の質問にお答えします。おっしゃるとおり3月の『施政方針』で、今の質問事項やったわけなんですけど、とりわけこの件については、現在も人口減少をどう食い止めるか、あとは今、実際取り組んでいる、人口減少に、少子高齢化などという問題ですね。あと、今取り組んでいるのが、定住促進住宅の整備。2期目をやっているところなんですけれども、一番大事なことは、どうやって、来る人が住める場所を提供できるか、これが一番の大きな課題でありまして、今でも実際、伊平屋に移住したいという方がいるんですけれども、なにしろ住むところが整備されていないというのが一つ大きな問題でありまして、今、建設課の中で地域活性化企業人が入っているんですけれども、その方が、空き家の対策「今後空き家をどう直して、人が住めるように整備をしていこうか」と、今ちょうど調査をしているところなんですけども、これが今後の課題の一つになっております。そういうことで、今年、早ければ1軒か2軒程度はできるのかなと。これは

あくまでも予定でありますので、ここで「やります」とは言いませんけども、一応計画の中には入れてあります。

それと、先週もありましたね、6日でしたか、金曜日に、伊平屋てるしのワーク協同組合という協同組合が設立されて、人材不足に伴う人材派遣を主にやっていくということが定款^{ていかん}の中にありました。そういうことで、今、非常にマンパワーが、どこも人手が足りない、働き手もいないです。農業もそうです、農工業も、飲食店、そして観光業も含めて人が足りないと。そういうところに伊平屋てるしのワーク協同組合が人材を募集して派遣していくということも実際やっております。

それから今月の27日に伊平屋村の産業活性化協議会の総会も予定しております。その中で、今後この問題についてどう取り組んでいくかが話し合われると思いますので、両組合と協議会が今後、行政そして団体、一緒になってこの問題に取り組んでいけるのかなと期待をしているところでありますので、どうかその辺はまた、施政方針からわずか3か月しか経っておりませんので、今後、この協議会、協同組合一緒になって取り組んでいきたいと考えております。以上です。

■議長（金城信光） 野甫議員。

■7番 野甫英芳議員 村長の答弁で一応理解はしますが、村長が村長になってから、伊平屋村の産業活性化協議会とか若者未来会議とか、いろんなシステムを作って、今、伊平屋てるしのワーク協同組合、人材派遣のシステムを作ったと。あと他にもIT関連とかいろいろやってはいるんですけど、それが今後どのようにつながって、島の活性化になるかということが、いまいち村民によく伝わっていないので、ぜひ今後、村長が今年一年終わるまでには「ああ、少しは明るい未来が見えてきたな」というふうになればいいかなと思いますので、その辺よくご検討してこれ

からやっていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。以上で 1 番目の質問を終わります。